

全力で突っ走れ！ 折乃笠部長

## 富士山歴訪の旅

1. 大月秀麗富嶽十二景登山の旅 2012年

【16】四番 滝子山 11月 2日(金)



## 目次

## 【1】目的

- (1) 更なる大月発見
- (2) 大月市民特性の地理的背景
- (3) 何事にも目的を持ってチャレンジ

## 【2】大月市秀麗富嶽十二景 十九峰 地図

- 【3】 八番 岩殿山 4月30日(月)
- 【4】 六番 扇山 5月19日(土)
- 【5】 十一番 高川山 5月26日(土)
- 【6】 七番 百蔵山 6月10日(日)
- 【7】 八番 お伊勢山 7月14日(土)
- 【8】 十番 九鬼山 8月 4日(土)
- 【9】 九番 倉岳山 高畑山 8月13日(月)
- 【10】 二番 牛奥ノ雁ヶ腹摺山 小金沢山 8月16日(木)
- 【11】 五番 奈良倉山 8月18日(土)
- 【12】 十二番 清八山 本社ヶ丸 9月 1日(土)
- 【13】 四番 笹子雁ヶ腹摺山 9月 9日(日)
- 【14】 一番 雁ヶ腹摺山 姥子山 9月29日(土)
- 【15】 三番 大蔵高丸 ハマイバ 10月 6日(土)
- 【16】 四番 滝子山 11月 2日(金)

## 【17】考察

- (1) 更なる大月発見
  - ①全体を通して
  - ②秀麗富嶽十二景 日本一富士山が美しい十九の峰
  - ③大月の文化
  - ④悲しみの森
  - ⑤まとめ
- (2) 大月市民特性の地理的背景
- (3) 何事にも目的を持ってチャレンジ
  - ①心意気
  - ②チャレンジ ベスト5
  - ③失敗 ワースト5
  - ④楽しかった ベスト5

## 【18】まとめ

**【16】 秀麗富嶽十二景 四番 滝子山**

11月2日(金)

大月駅 → 初狩駅 中央本線

初狩駅 → 藤沢地区 → 瑞岳院入口 → 檜平 → 滝子山

→ 檜平 → 滝子沢 → 笹一酒造 → 笹子駅

笹子駅 → 大月駅 中央本線



11月2日（金）

5時00分

起床。

外はまだ暗い。

今日はなんとなくあたたかい。

さわやかモーニング！

十分な朝食を取り、体力補強。

（ご飯、もやしの味噌汁、生卵、昆布の佃煮、野菜ジュース。）

今日は、最終回、十九番目の四番滝子山に登る。

同四番の笹子雁ヶ腹摺山は9月9日（日）に登った。

10月に入り、土日は、社内秋祭り、町内運動会、飲み会等々によりなかなか登山に行けず、11月も忙しそうなので、今回は年休を取って登ることにした。

最終回なので、気合が入る

家内にJR大月駅まで車で送ってもらう。

5時53分

大月発甲府行に乗る。

平日ということもあって会社勤めの人が多い。

こちとら登山だい！なんか気分が良い！

電車は田園地帯を走って行く。

雲一つない晴天、日の出が美しい。

まだ、星が輝いている。

少し欠けたお月様が明るく光っている。

見慣れた景色も輝いている。

6時03分

大月駅から一つ目の初狩駅に着く。

ここは、十一番高川山登山時に出発した駅でもある。

この駅には近くに採石場があるため貨車のヤードがある。

ヤードの先に滝子山が見える。



初狩駅ヤードと滝子山

6時05分

駅前の地図で現在位置を確認。  
さあ、滝子山を目指して出発。



朝の初狩駅

ここで滝子山を紹介。

『山名は滝が多い滝子沢の源流にあたることから。  
麓から見ると山頂が3つ見えることから、三つ丸とも呼ばれる。  
丸とは古い朝鮮語で峰を指すマルに由来するとも言われる。』

源為朝が自害した場所という伝説をもとに、  
鎮西ヶ丸という山名もある。

山頂からの展望が良く、360度の眺望が魅力的である。  
南には三つ峠などの山々を前衛に富士山が綺麗に見えるほか、  
道志山塊も見える。  
北には大菩薩嶺などの山々、西の遠くには八ヶ岳連峰、  
南アルプスを眺めることができる。

山梨百名山や大月市の秀麗富嶽十二景に選定されている。』

6時10分

甲州街道を甲府方面に進む。

朝焼けの景色が美しい。  
富士山が山々の間から顔を出している。  
滝子山が赤く染まっている。



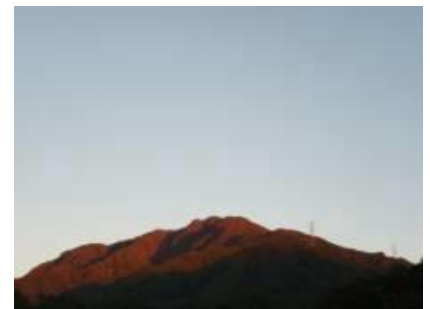
おはよう！富士山

6時12分

甲州街道を右折。  
藤沢地区の民家群に入る。

6時15分

笹子川を渡る。  
お月様を見上げる。



赤く染まる滝子山

6時18分

民家群の中に大慈悲観音菩薩の石像があった。  
やさしい顔をしている。  
行ってきま〜すと御挨拶。



大慈悲観音菩薩

6時25分

ふと後を振り向くと美しい富士の姿があった。  
この辺の人たちは、いつも富士の姿をまじかに  
見られて幸せだなあ。  
四季折々の富士が見られるのだと思う。



民家から富士山が見られる

6時25分

だいぶ登る坂がきつくなってきた。

6時40分

分岐点。左が滝子山登山口。  
右が瑞岳院入口。



登りの道

ここを瑞岳院を紹介

『街道から滝子山へと進んでいくと、深閑とした針葉樹林の中に  
大菩薩山瑞岳院のたたずまいにたどり着きます。  
誰でも参加できる禅の道場で、外国人の参禅も多く、  
企業の社員研修などにも利用されているとか。』

さっきまでの車社会の現実から別世界にきたような感動を  
おぼえます。』



滝子山と瑞岳院の分岐点

今度、小生も座禅を組みに来ようと思う。

滝子山登山道に入る。  
遥か先に滝子山が見える。

6時45分

ただひたすらに林道を登る。



しばらく林道が続く

6時58分

暗がりの山道をもくもくと登る。  
小川のせせらぎの音が聞こえる。

未明。

メーデー、メーデー。

大変な事になってしまった。

道を大きく外れ、川沿いの絶壁を登ってしまった。

5m登ったところで立ち往生している。

ぬかるみがひどくて足の踏み場がなく、上には行けない。

下に戻るにも、つかまる物がなく、転がり落ちる可能性がある。

下は岩がごろごろしており、落ちるとやばい。



川沿いの絶壁 立ち往生現場

10分間絶壁の途中で考えている。

リスクが一番少ない方法＝お尻で滑って降りる が結論。

携帯の電波は何とか届いている。

最悪の事態は、国際救助隊サンダバードを  
呼ぶしかない。古！（まだ心に余裕がある？）

冷や汗と脂汗でぐちょぐちょ状態。

今までの登山で一番恐怖を感じた。

何とかクリア。

元の地点に戻れた。

30分ロス。

一年前の自分だったら、めげて、ここで登山を  
中止していただろう。

今は、この位ではへこたれない自分がいた。

7時45分

日が当たって山がキラキラ輝いている。

登り坂がきつくなってきた。

先程のメーデーで体力をだいぶ消耗。

7時58分  
秋の小道を行く ♪

詩人的雰囲気になる。

『まだ上げ初めし前髪の  
林檎のもとにみえしとき  
前にさしたる花櫛の  
花ある君と思ひけり

・  
・  
』

8時12分  
ひたすら登る。  
青空と紅葉がとても綺麗。  
すっかり秋である。

8時28分  
日の当たる紅葉の綺麗な所で休憩。  
日差しがあたたかい。  
カヤバのフルーツグミが超うまい。  
ポカリスエットも体に沁みる。  
秋の日に一人想いにふける。

8時40分  
出発。体が冷えてきた。

8時55分  
檜平に到着。  
一面平地が広がる。  
芸術的な木がある。

美しい富士の姿が見られる。

ここ先、男坂と女坂がある。  
迷わず女坂へ行く。  
理由???



秋の小道



青空と紅葉



檜平の芸術的な木



檜平からの富士山



9時00分

女坂は快適である。  
紅葉がほんと綺麗である。  
紅葉芸術劇場。



9時15分

ところが、女坂とたかを括っていたら  
どっかい登坂がきつい。  
が、真っ赤なもみじに癒やされる。

紅葉芸術劇場



9時20分

滝子山の山頂が見えてきた。  
頑張ろう！



9時25分

もの凄いきつい登り坂。  
もうすぐ山頂か？

9時30分

まだまだ上がある。



きつい登り坂

9時40分

やっと、やっと山頂到着。  
標高1620m。  
3時間40分登りっぱなし。  
よくぞ頑張った。

下には、今日出発した初狩駅周辺が  
見えている。  
思えば遠くへ来たもんだ。



山頂の道標



遥か遠くに初狩駅が見える

そして、雪をかぶった美しい富士の姿があった。  
最終回十九番目の山頂で素晴らしい姿が見られた。  
富士山の最後の御褒美かもしれない。  
ありがとう、富士の山！

一番山頂の雁ヶ腹摺山と姥子山もきれいに見えている。

雲一つない晴天。  
心晴れ晴れ。



美しい富士の姿



左が雁ヶ腹摺山 右が姥子山

9時58分

出発。

行きとは違ったコースで、男坂、滝子沢を  
通って笹子に下る。

10時05分

綱を頼って一気に駆け下りる。

10時15分

男坂、女坂の分岐点。

男坂に行く。なんだか凄そう。

10時17分

男坂は坂が急で枯れ葉が多くてすべる。

ワイルドって感じ。

10時28分

檜平着。

ここで、来た道と異なり滝子沢に下る。

実は、ここから、悲劇が始まる。

10時35分

多くの木が枯れて倒れている。

異様な雰囲気がある。

ゾクッとするような霊気を感じる。

10時38分

岩が転がって木で止められている。

怖！

何か不気味な景色が続く。

10時45分

やば。いつの間にか道が無くなっている。

気がつく急斜面の林を降りている。

やはりこの道はマイナーだったか？



急な下り坂



左の男坂に行く



枯れて倒れた木



木で止められた岩

10時50分

元の位置に戻るため急斜面を戻る。  
心臓がバクバク。

11時00分

だめだ。道が無い。  
仕方がない、多くの杉が枯れて倒れている  
急斜面を降りことにする。  
磁石から方向は間違っていないと事を確認。  
枯れ葉が深く濡れていて何回も滑ってコケル。

多くの杉が枯れ朽ちている。  
明らかに人が入った形跡がない死の森だ。

脱出できるのだろうか？  
地図と磁石から川がある方向に下る。  
川に行き着けば、川の中を下りて林道にでるはずだ。

11時15分

なんだ？これは？  
人工のモニュメント？  
ということは、ここには人が入ってきた事になる。

あった！ 川の源流が見つかった。

ここからは、川の中を下る。  
水も少ないので大丈夫だろう。

11時30分

大きな岩がごろごろしており、足場が滑って  
たいへん危険な状態。  
なんとか、大きな岩を登ったり降りたりして  
微速前進している。



森の中 急斜面を降りる



人口のモニュメント？



川の源流

11時30分

更に岩が大きくなってきており、登ると3m下に水が流れている。

落ちたら相当やばい。

大メーデー、大メーデー状態。

来た道のメーデー状態の十倍はやばい状態。

11時45分

あたりは薄暗く、遥か先まで巨大な岩がゴロゴロしている川が続く。

直感的にこの事態は相当やばい。

このままでは、滑り落ちて川で溺れてしまう。

急斜面を登り、森の中に進路を変える。

11時50分

枯れて倒れた木の死の森が続く。

12時00分

遥か先に舗装して林道が見える！

やった！生き延びた。

(冗談じゃなく本当にそう思った。)

12時10分

林道着。大きく休憩。

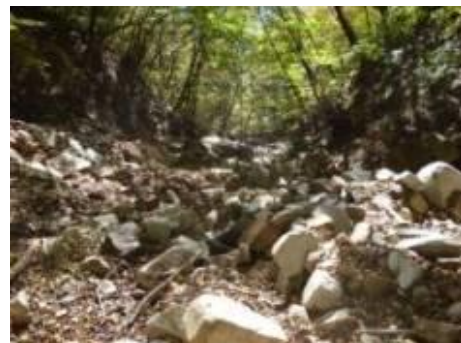
助かった！恐怖であった。

12時20分

平和に林道を下っている。

12時25分

見上げると紅葉している滝子山が何も無かった様にこちらをみている。



大きな岩がゴロゴロしている



死の森が続く



林道に行き着いた



紅葉の滝子山

12時30分

癒やしの森という所に到着。

癒やしの森と悲しみの森？

記事を調べてみた。

『「悲しみの森」に下流域の人招く



朝日新聞の山梨地方版より

2011年11月19日

手入れの大切さツアーで伝える

「ここが悲しみの森です。手入れがされずに  
光も入らない。  
かわいそうだが、不健康な樹木です」



明るい雰囲気癒やしの森

大月市笹子町、滝子山に向かう登山道を登りながら、  
ガイドの天野忠廣さん（73）が説明する。

市が今月6日に開いた

「悲しみの森・癒やしの森トレッキングツアー」。

東京都などから約20人が参加した。

不健康な森と間伐などがされた「癒やしの森」を比べ、  
森の荒廃をじかに知ってもらおうという狙いだ。

植林後、育った樹木を間引いていくのが間伐だ。  
森が密集すると木への栄養が回らず、1本ずつが細くなる。  
光が入らず下草も生えないから保水力も弱くなる。  
それらを防ぐためだ。

天野さんは先祖が残した28ヘクタールの森に、  
暇があれば足を運ぶ。枝切りや下草刈りをするが、  
間伐にはなかなか手を出せない。  
切った杉の丸太価格は1トン約1万円。

チェーンソーの使い手を雇い、搬出料を払えば  
完全な赤字に陥ってしまう。

大月市では全面積の87%が森林。  
その半分を占める民有林のほとんどが「悲しみの森」だ。

この日のツアーに加わった根本真弓さんは東京都奥多摩町  
などで自然解説員をしている。  
「手入れされていない人工林の問題が、地元の方のなまの話で  
よくわかりました」という。

売れないから、伐期を過ぎても植えたままの木はやがて  
立ち枯れし、森の本格的な荒廃が始まる。  
「対策を講じなければ20年後に現実となる。  
民有林維持は上流の個人や自治体だけではもう限界です」と、  
ツアーを企画した大月市産業建設部の佐藤次男部長は話す。

神奈川県は来年度から5年間、山梨県での森林整備などに  
3億6500万円を負担する。

笹子の森を「荒廃林の博物館」にして、水源を上流に頼る  
下流域の人を招く、そして財政支援の一層の拡大に向けた  
世論を高めていきたい——。  
それが市の一番の狙いだ。』

そうか、先程の怖い経験は  
悲しみの森の杉たちが、  
実体を見てもらいたくて、  
小生を導いたのかもしれない。

そう、思った瞬間、  
鳥肌がたってしまった。

崇りにあわなくて、  
本当に良かった！



12時40分

ダム建設現場を通過。



ダムの建設現場

12時55分

中央本線のガードをくぐって甲州街道へ。  
ここまで来れば、杉の木の祟りはないだろう。



中央本線のガード ほっとする

13時05分

あたたかい日差しの下、甲州街道を笹子駅に  
向かって歩いている。

13時37分

笹一酒造着。  
ちょっと一杯、缶ビールで乾杯！  
いねむり爺さんにあいさつしてすぐ出発。



あたたかい日差しの甲州街道

予定では、1時間位滞在して、山菜天ぷらそば&新酒でも  
と考えていたが、遭難事件で時間がなくなってしまった。

14時00分

笹子駅。高尾行に乗る。



笹一酒造に接近

14時20分

無事、浅利の家に着く。

・  
・  
・

18時30分

立川で一年に一回の二研会（シャシ機構設計部&ドライブトレーン  
設計部の前身、OB&現役）に参加。

たいへんな盛り上がりであった。

有馬元専務の挨拶で始まり、小生の挨拶で終わった。

毎回、非常～に楽しい会である。



25時15分

最終電車で大月駅着。

家内のお迎え、すいません。

こうして、四番滝子山登山は、最終回にふさわしい最高の富士の姿と  
悲しみの森の実体を見た。

4月30日八番岩殿山から始まり、11月2日四番滝子山で終わった  
秀麗富嶽十二景十九峰の登山。